

## 高校生と川崎市議会議員の意見交換会 高校生の主な御意見

令和6年12月24日開催

意見交換会では、「100年後の川崎は〇〇〇〇な街になってほしい。」を主題に意見交換を行いました。

### 【皆が活躍できる街】

- ・私は川崎市が好きで、自分の住む町をもっと良くしたいと思うので議員になりたい。
- ・選挙や政治と聞いてピンと来るものがあまりなく、若者が選挙や政治に関心を持ったり知ったりすることは、なかなかハードルが高いと思う。もう少し簡単に分かり易く理解できる場があると、理解が深まり興味も湧くのではないかと思う。
- ・前回の選挙の時に自分の学校では、かなりの生徒が政治について話しをしており、政治について関心のある高校生もいると思うが、直接、議員と接する機会もなく政治への距離感を感じるので、高校生が身近に感じられる機会があれば良いと思う。
- ・男性である私は女性が議員になることのハードルの高さが分からないので、男性側は知っていこうとする意思が必要であり、女性側もハードルの高さについて発信して、お互いに知り合えるようなことをしないと、社会全体での理解は深まらないと思う。
- ・「男性は仕事、女性は家庭」という慣習を変えて、男性が家庭に参加することで、女性が家庭以外のこともできる環境を作ることによって、議員になりたいという気持ちも生まれるのではないか。
- ・多世代の人の交流が図れるように、カフェのような、交流・コミュニケーションの場を作るのが良いと思う。
- ・私の地元では、日頃から道端で会えば挨拶を交わす関係性が地元の方々の間である。地域でのイベントを増やし参加して交流が生まれることで、日頃から挨拶をできる関係性が生まれると思う。
- ・地域の方及び区役所職員とごみ拾いなどの活動を通じて協力して取り組むことがあるものの、学校内で活動の呼びかけをしても参加者が集まらず、苦慮している。
- ・地元子ども食堂があって関係性が生まれる場となっているが、対象が子どもに限定されているように感じる。子どもに限定せず、市内各区に子ども食堂のような場を設ければ、知り合いが増えて、孤立しない関係性が生まれると思う。
- ・人口が減少しても笑顔が絶えない豊かな街にしていきたい。
- ・自然を大切にしつつ、最先端な機能を有する街にしていきたい。
- ・子どもの急病などで突発的に仕事を休む必要が生じた際も、休みやすく安心して子育てができる街にしていきたい。
- ・本市が推進しているパラムーブメントの取組をさらに推進し、障害者でも活躍できる街にしていきたい。

- ・高齢者に優しい街にしていきたい。
- ・私の住む地域では学校のクラス数が減少し、徐々に活気が失われてつつあると感じるため、子どもがたくさんいる活気のある街にしていきたい。
- ・川崎市は周辺の街に比べると暗いイメージがあるため、より明るい活気のある街にしていきたい。
- ・全国都市緑化かわさきフェアの富士見公園会場を見学したところ、今までの富士見公園とは一変して非常に活気のある雰囲気になっていたので、今後も再編整備等でそのような場所を増やしてほしい。
- ・学校内の多くの生徒は生徒会の仕事に興味を持っておらず、活動に対する理解を得ることが難しい。
- ・生徒会活動は学校内の縦のつながりは強いものの、近隣の学校の生徒会役員同士における横のつながりが弱いと感じる。

### 【安心して暮らせる街】

- ・川崎は治安が悪いというイメージが目立つため、様々な施策によりマイナスイメージを払拭していく必要がある。
- ・犯罪防止の映像を作成して、高校や中学校で活用して啓発活動を行うことは有効な手段だと考える。
- ・自宅近くの信号のない道路を、スピードを出して走る車があつて危なかった。
- ・信号無視している人を見かけることが多く、車が近づいている時に危ないと感じることがある。
- ・夜間に警察車両を見かけることが少ないので、警察が夜間の巡回パトロールを強化することで治安は良くなるのではないか。
- ・川崎駅や溝の口駅は交通の利便性が高いことから、そうした点をアピールして、川崎市のイメージアップを図りたい。
- ・川崎市生まれ川崎市育ちの親は、本市は大規模な商業施設を有するなど、住みやすい街であると認識している。
- ・川崎市で発生した事件をニュースで見る機会が多い。特に川崎区は多い印象があるため、住んでいる地域だけではなく、全ての地域が安心安全な街になってほしい。
- ・これまで住んできた川崎に愛着があるため、今後も住み続けたいと思っているが、友人は東京都や横浜市に引っ越したいと言っている。川崎の魅力をもっとアピールする必要がある。
- ・市の南部はイメージから近づきがたかったが、スポーツを通じて交流し、イメージが変わった。スポーツや音楽の街であることをもっと広報してほしい。
- ・スポーツで交流することがイメージ向上に効果的である。初心者も容易に参加できるようにし、町内会同士でチームを作るなどすれば地域のつながりが深くなる。

- ・子どもと関わる機会が少ないまま、子育てをすることになると思ったため、保育園でボランティアをしている。川崎市はこどもが多いイメージで、保育・子育て支援センターが新設されるなど、子育て支援に力を入れている印象を受けた。
- ・お祭りなどの地域の情報はインターネットで収集しづらい。私立の学校に進学すると地域のつながりがなくなるため、より情報が拾いづらくなる。地域のアプリ、SNS、駅にポスターを掲示するなどして広報することが効果的であると思う。
- ・健常者と障害者が共に学べる教育（インクルーシブ教育）について、認知度の低さ等が課題と認識している。在学中の高校では、障害者の水泳大会の運営に携わっており、スポーツや教育以外にも、身近な事柄からインクルーシブについて理解を深める機会があればよいと思う。
- ・在学中の高校の空調を更新することになり、以前LED電球を設置した際に、当時は空調設備を設置することを考慮しておらず、電球の場所を再調整する必要が生じていた。また、来年以降に窓枠を調整予定であるが、空調設備の管が加わることで、窓枠工事に影響が及ぶ可能性がある。工事ごとに業者が変わることで、工事の一貫性が失われていることがあると考えられる。
- ・居住地からこども文化センターまでの距離が遠く、利用しづらい環境にある。駅周辺施設等にあれば利用しやすい。
- ・東京都の私立高校に通学しており、都内在住の生徒は所得制限なく授業料の支援が受けられる一方で、神奈川県では同等の制度がなく、生徒同士でも話題になることがある。

### 【緑豊かな街】

- ・市と協力して高校の緑化計画を策定する機会があり、その過程で様々な緑化の取組に興味を持つことができた。
- ・等々力緑地の周辺に住んでおり、疲れた時などに散歩することで癒されている。
- ・市営住宅の周辺の花壇に花が植えられており、身近に自然の存在を感じていたため緑が好きになった。
- ・街路樹があると景観が綺麗になることから、植樹を進めてほしい。
- ・花壇を作るなど良好な景観が保たれることによって、ごみ捨て防止にもつながるのではないか。
- ・駅の一区画に緑に関する広報誌等を置くことで、より多くの人々の目に留まり、興味を持ってもらえる可能性が高まると思う。
- ・緑に関するイベント等に気軽に参加できる仕組みが必要だと思う。おみくじを引いてもらって、その中に植物などの種が入っていて、その種を植えるスペースを作るなどすることによって、気軽に植物を育てる機会になる。
- ・公園にある落ち葉を集めて焼き芋をやるなど、イベントでまとめて消費するようなことをすれば、落ち葉は片付き、ゴミ袋も使わないので良い。

- ・進路活動の際にボランティア実績の証明書を使うような場面があるので、そうしたものを活用して、高校生に落ち葉等の清掃活動のボランティアを募ることは有効な手段だと思う。
- ・幼い頃から清掃や環境活動等のイベントに参加すると、自然や環境を大切にしようとする意識の芽生えにつながる。
- ・本市では北部に緑が多いものの、南部では緑が少なく、もっと緑を増やしてほしいと思う。

### 【多彩な文化を育む街】

- ・市内で買い物をする際に、アニマルウェルフェアに考慮した商品が少ないと感じた。
- ・日本は他国と比較してペット等よりも畜産動物の扱いがよいと言えない状況であるため、アニマルウェルフェアについて意識の向上が図られてほしい。
- ・一人っ子の世帯が増え、子どもに触れ合う機会のない人が増えている。保育ボランティアをしているが、ボランティアを通年で募集しても人が集まらず、地域のコミュニティが希薄化していると感じる。在学中のクラスの保護者に子育て関係のアンケートを取る機会があり、子育て関係で行政の支援を受けたか聞いたところ、ほとんどが受けていないと回答していた。子ども触れ合う機会と併せて、子育て関係の支援等を知る機会が設けられるとよいと思う。
- ・学校の授業において、子育て関係の実技を行う機会がない。学校でそのような授業を行い、子どもに関心を持つきっかけになればよいと思う。
- ・高校では不登校の生徒が一定数存在し、誰もが過ごしやすいまちの必要性を感じた。また、地域における人とのつながりが少ないことで孤立化することもあるため、地域コミュニティの希薄化も課題と感じている。
- ・川崎市は音楽のまち・スポーツのまち等をうたっているが、それぞれの個性をもっとアピールできるとよいと思う。

### 【活気にあふれる街】

- ・私が居住している市営住宅には高齢者が多い。その方たちに積極的に関わる世代間交流が活気にあふれる街となるために重要であると認識しているものの、なかなか行動に移せずにいる。
- ・世代間交流が出来るようなイベントについて、なかなか目に入るところにお知らせがなく、イベント開催後にその存在を知ることが多い。
- ・都市の活気については、交通の利便性向上が大きな役割を占めると考えている。武蔵小杉駅は交通の便が良くなったことで新たな活気が生まれたと聞いている。
- ・私が音楽活動をしていることもあり、賑わいの創出に資するものとして「音楽のまち」の取組について興味があるが、演奏等を披露できる場が少ないと感じている。
- ・最近、子どもが遊べる場所が減少しているように思う。こども文化センター等の一部施設

に人が集中しており満足に遊べない状況となっているため、もっと地域で遊べる場所を作ってほしい。

- 両親の実家への帰省により他都市に行く機会があるが、公園等ではボール使用などを含めて自由に遊ぶことができた。そうした点を踏まえると川崎市の公園ルールは厳しいのではないかと思うことがある。